

「新学習指導要領の趣旨を踏まえた学力向上等の方策に関する調査研究」(その2)

「新学習指導要領の趣旨を踏まえた学力向上等の方策に関する調査研究」の推進校としての取組について、前号では下関市立豊東小学校と下関市立玄洋中学校を紹介しました。

今回は、周南市立周陽小学校と宇部市立神原中学校の2校の取組を紹介します。

## 周南市立周陽小学校 [\[http://www.shunan.ed.jp/shuyosho\]](http://www.shunan.ed.jp/shuyosho)

### 1 特徴的な取組について

◆単元を貫く言語活動を位置付けた授業の工夫をすることにより、自ら学ぶ子を育成する

(1) 単元を貫く言語活動を仕組むために

①単元を貫く言語活動をもとにした単元構想の共通理解・協働実践と協働教材研究

②単元の中での重点的な指導事項と言語活動を組み合わせた授業実践

③児童にとっての学ぶ必然性を考えた授業の工夫

④他教科の指導事項との関連を意識した指導

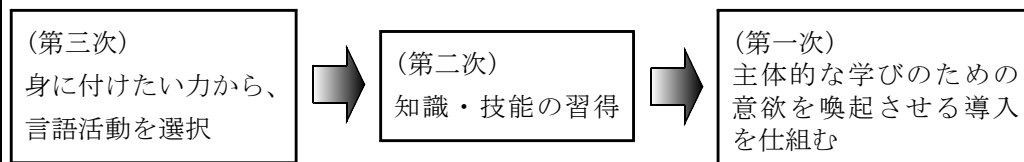
⑤6年間を見通した一貫した学習規律の指導の徹底

(2) 単元構成において気を付けていること

子どもたちの主体的な取組と学ぶ必然性が子どもたちに確かな学力を保障すると考え、研究が進められています。例えば、5年生の「注文の多い料理店」の学習では、「謎解きブック作り」を第三次での活動に仕組み、そのために第二次で各場面の叙述について自分の考えをまとめさせています。つまり、児童の学習意欲と本教材の特性から、付けたい力が叙述を利用して自分の考えをまとめる力であると考え、「謎解きブック作り」という言語活動を選定し、物語文指導の単元を見通した構成が行われています。このような「単元を貫く言語活動を位置付けた授業」を研修の中心に据えて、研究が推進されています。



子どもを学びの主体者にするために



確実な学力の定着のために



### 2 取組の様子について

付けたい力を見極めるためにマトリックス型年間指導計画が作成され、年間でその指導事項をどこでどの程度身に付けさせたかを確認しながら言語活動が選定されています。また、公開授業を繰り返す中で、児童の思考を促す発問、板書、ノート指導の在り方や、児童が目的意識をもって主体的に学ぶための要件など、ポイントを絞った研修が行われ、授業改善に生かされていました。

## 1 特徴的な取組について

### ◆学力向上をめざす6つのアプローチ

#### ◇キャリア教育の充実（何のために学ぶのか、学ぶ目的の明確化のために）

〈できることを知る・したいことを見つける・社会が求めることを自覚する〉

キャリア教育全体計画・指導計画を見直し、指導の目的・ねらいを明確にした実践を積み重ねることで、社会的・職業的自立に向けて必要な基礎的・汎用的能力と3つの視点を体系的に育む。

#### ○指導方法の工夫改善

学び合いのある授業づくりに向けて探究的な学習課題を提示し、学習形態の工夫とともに「聴く一つなぐーもどす」という役割を意識して、生徒の学びを支援する。

#### ○研修体制の充実

3つの研究班（学び研究班・評価班・学習支援班）を編成し、自己課題を明確化する。月1回の授業研究を充実し、講師を招いて年3回の公開授業研究会を実施する。

#### ◇連携・協働

小学校への出前授業や共通取組事項の実施・合同研修会の開催等、小中連携の充実、高校・大学や保護者・地域とのつながり強化等とおして、5つのアプローチの質を上げる。

#### ○学習環境の整備

生徒作品の展示・掲示物の工夫や定期テスト前の「質問タイム」、自主学習の提供、さらに長期休業中の学習週間（補充学習）の実施など、生徒の学習を刺激・深化する環境を整える。

#### ○生活・学習習慣の定着

朝の読書活動の推進や保健委員会と連携しての生活リズム調査の定期実施、食育の啓発や自主学習ノートの提出など、生徒の生活の安定と学習の習慣化を図る。

## 2 取組の様子について

### ◆生徒の学びを中心に！

生徒一人ひとりの学びの事実を大切に、全員が分かる・できるという達成感・成就感をもち、確かな学力を身につけることができる授業をめざして、日々研究と改善に取り組んでいる様子が伺えました。



〈ビデオで授業を分析・検討〉



〈主体的に学び合う生徒〉

また、生徒が主体的に意欲をもって学ぶことができるように様々な学習環境の整備に力を入れるとともに、近隣の小学校・高校・大学等、さらに保護者や地域とも連携・協働して、学ぶ意義や目的の明確化や家庭学習の充実に努めた取組が進められています。